



黒田重雄 春の花々 F5(水彩)

作者コメント:

春の切花。ガーベラの鮮やかな色とポピーのピンクのグラデーションに興味を惹かれました。

花の高さが低くて花器全体を描くとバランスが取れないので少しカットしました。色が主体の絵になったようです。

喜田コメント:

華やいだ春の気分が満載です。

盛り花を描くのはなかなか難しいのですが、右に赤のガーベラを、左に黄色い菊を描き、真中に柔らかいピンクのスイトピーをボリューム一杯に描いた構図が良かったと思います。

また、名前は分かりませんが、背後に竹ぼうきのような硬質的なものを少し入れたことも、絵にバランスと深みを出す効果があったと思います。

花瓶が逆三角形で見る者に少しだけ不安を感じさせます。花瓶の形状を変えないで、安定感を出す方法を考えてみてください。



岡田理子 向日葵 F8 (水彩)

作者コメント:

太陽に向かって挑むような強烈な向日葵。

暗い気持ちを吹き飛ばすよう、そんなイメージと相対するガラスの優しい透明感が出せたら良いと思いました。

喜田コメント:

色のバランスが抜群に良いと思います。

最近どこの花屋にも売っていないような荒々しい昔ながらの「向日葵」ですね。

中心(主人公)の向日葵が強く主張しています。卓上の小さな壺に光を当てたのはどういう意図ですか？ 子の意図は結構いいかもしれません。ここに目が行ってしまいますが、主人公(ヒマワリ)と対比できて作品の幅が広がるからです。

卓上の左を暗くして、そこに小さなヒマワリを横に寝かせたり、マスキングでチェックの模様を入れたり脇役もとても面白いですね。マスキングの使い方が面白い。



竹前義博 鳴岩隧道 F4 (水彩)

作者コメント:

私の田舎の鳴岩隧道です。この奥に民家はなく、山林作業用の隧道です。昭和 28 年の竣工です。昔は山林の仕事が盛んで、この隧道ができる以前は、大変な思いでこの上の峠を超えていったのだらうと、昔の人に思いをはせます。

喜田コメント:

信州須坂の竹前さんのお宅に何度か訪問した時に通った隧道かと思ったら、別の隧道でした。これは、もっと古い隧道ですね。季節は新緑の頃か？ 入口の左側は燃えるような緑、右側は岩石ですか？ ここは木が生い茂っていた方がよかったですね。とても面白い構図です。絵の中心にトンネルの入り口と出口が重なって見えます。出口から差し込む光が構内を照らす効果をもう少し出したいですね。そのために、坑内の黒にグラデーションと光の筋を使ってみるとよいとおもいます？

また、真っ暗な隧道の中の表現にアイボリーブラックは使わないようにしましょう。アイボリーブラックが一番汚れた色です。アイボリーブラックの代わりに、補色を混ぜ合わせて作りだした「黒」を使いたい。例えば「ヴィリジャンとクレムソンレーキ」「プリーシアンブルーとバーミリオン」などを混ぜると美しい「黒」が出来ます。ぜひやってみてください。「鳴岩隧道」の表示板、字が上手ですね。



月川りき江 奈良風景 24cmx18cm (新聞ちぎり絵)

作者コメント:

2年前に作りながら、あまりの下手さにごっかりして途中で投げ出しました。
昨日思い出して少し手を入れたら、まあ見られる作品になりました。

喜田コメント:

秋の奈良の寸景ですね。五重塔あり、寺の重々しい屋根とベンガラ色の壁あり、また、水と石橋があり、黄色に染まった銀杏の木が沢山あります。構図がとても良いと思います。特に色の組み合わせがとても面白く、かつ美しいです。
水面に映った五重塔や寺の屋根の影もまた美しいです。影の表現が丁寧です。ただ単色を貼るのでなく、水面に広がるさざ波の模様もベンガラ色を取り入れた表現しています。全く感心してしまいます。真っ黄色な銀杏の木を空の協會の形もセンスの良さが見えます。とても良い作品です。



武智康子 ヒマワリと雲 F4 (水彩)

作者コメント:

コロナ禍で手入れされずに草木が鬱そうと茂った我が家の隣の公園が、お盆前に3年ぶりに綺麗に手入れされて明るくなった。すると、一角に2本の向日葵が現れて、空に向かって凛として咲いているのが見えた。その姿に私は、元気をもらった。そこでその姿を夏の雲とともに描いてみた。

雲を描くのが難しく、何だかパンチがないような感じがする。空を描くには、もっと大きな画用紙に描くべきだったかなと思った。

喜田コメント:

夏空に向かって咲く「ヒマワリ」、気持ちのよい「白い雲」、作者の気持ちがストレートに伝わって来る作品です。

作者は、大きな「ヒマワリ」と青空を流れる「白い雲」の語らいを描きたいのですよね？
雑念の無いストレートな作者の気持ちが作品に良く表現されていて、大きな好感を持ちました。
私はこの作品を最初に見た時、ヨコよりもタテに描いた方がヒマワリの勢いが出ると思いました。しかし、今、よく考えてみると、「空と雲」を広く確保できるヨコが正解です。

主役のヒマワリを一輪と半分、葉っぱを2~3枚、そしてもう一つの主役の白い雲をいくつか、バランスよく描いてくれました。今月の武智さんの作品は「あとリエー丁」にぴったりの作品です。手を加えたとしたら、2つのヒマワリの描きかたを変える、つまり大きなヒマワリを強く、半分のヒマワリを弱く(今の程度)に描くことです。



遠矢慶子 葉山の海からの贈り物 F4 (水彩)

作者コメント:

森戸海岸で拾いました。こんなにきれいでないのですが、真中は海に打ち上げられていた棒切れです。

喜田コメント:

葉山の森戸海岸は素晴らしく美しい海岸です。森戸神社があり、真っ白な砂浜があり、遠きには森戸漁港があります。岩礁に立つ赤い鳥居の先に、江の島が見え、さらに遠くには富士山が眺望できます。「あとりえー丁」で以前スケッチ会したので良く知っています。そんな場所で、遠矢さんは砂浜からこんなたくさんの「海からの贈り物」をもらっているんですね。

私がこの絵を見て最初に思い出した言葉は「誰もいない海」、トワ・エ・モアの歌った「誰もいない海」です。「今はもう秋 誰もいない海・・・」で歌い始める名曲です。

F4 の小さな世界に、広い広い海からの贈り物を描きましたね。

ここに描かれた色々な貝の名前を、私は知りませんが、真中に描かれた流木を含めて観る者に宇宙ほどの大きな想像をさせますね。この流木はどんな国を回ってここに、流れ着いたのだろうか。この作品はそういう意味でロマンティストな私が好きな作品です。

構図的には絵画的に描くか、デザイン的に描くかで異なってきますが、絵画的に描くならば、どこかに重点を置いて書いた方が良いと思います。一体化するためには、以前にも勉強しましたが、バラバラに置かれたものを、影を使って繋がりを表現出来ればよいと思います。

色彩の組み合わせも美しいし、貝殻一つ一つを描く筆遣いも大したものです。



喜田祐三 シンガポール川の夕暮れ F15 (油彩9)

作者コメント:

私はその昔、8年もシンガポールに住んでいました。

熱気に包まれた赤道直下のシンガポールには、日本のような美しい四季はないけれど、時刻とともに表情を変える人々の暮らしと水と空があります。

シンガポールとしては古い「コリアキー」の夕暮れ時の風景を描きました。

この作品は昔のスケッチブックから取り出した懐かしい一枚を、今月、油彩画にしたものです。10月3日から京橋の「ギャラリーくぼた」で始まる第68回「日立美術展」に出品しようかと思っています。

